

～昨日の風 明日の風～

経営コンサルタント 独白録

[第120回] 3年後の社会と7年後の社会



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、(株)経営改善支援センター(福岡市、URL: <https://sien.co.jp/>)代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

博多で13年間毎月開催していた「とじき塾」という社員・幹部研修会がコロナにより中断していました。その研修が8月から3年半ぶりに復活しました。その復活した研修会資料の冒頭にこんな文章を載せました。

～2020年1月から2023年5月までの「コロナ禍」のことを忘れてはなりません。街から人影が途絶え、目に見えないものに怯え、恐怖を煽るメディアと国の言いなりになり、人生にとって貴重な3年間を失いました。逆にその3年間を有意義なものとして捉え、成長した個人や組織も存在します。全ては「物事をどのように考えるか」で次の風景は変わってきます。「自分の身は自分で守らなければならない」という原理原則をこの3年間は教えています。さて、これからどのように考え、どのように動きますか？【リアル とじき塾】復活です！～

2025年問題と人手不足

久しぶりの対面型研修には懐かしい顔もあれば初めて見る顔もありました。研修ではこの3年のうちに変わってしまった社会の動きや個人の意識変化について語りました。

2025年問題とは、団塊世代(1947～1949年生まれ)が75歳以上の後期高齢者となることで起こる社会保険費の負担増や働き手不足などの問題のことをいいます。また、2030年には労働人口が644万人減少し、各業界では深刻な人手不足に見舞われます。研修の中ではどの業界がどれくらいの不足になるのかという推定値を詳しく伝え、今後組織の存続をどのように図るかについて語りました。企業経営を行うために「顧客」に選ばれることは当たり前のことです。同時にこれからは「働き手」に選ばれる必要があります。そのために組織が認識しておかなければならない要素は3つです。

- ① 5S活動の完成
- ② 価値観の共有
- ③ 生産性の向上

これらはすべて連動していて小手先で済ませられるものではありません。中期的な視点(計画)ときちんとした人材育成が不可欠です。汚い事務所や倉庫や工場、まともな挨拶もできない社員に加えて、それをおかしなことだと感じていないベテランたち。言われたことしかしない管理者、名ばかりの勉強不足の役職者もいます。陰でこそこそ仲間や会社の悪口を言い、時には社外でもそんな話をする。できない理由ばかりを並べ他の部署の不手際を笑う…。そんな組織に優秀な人材が集まるはずもありません。

130万社をつぶす？

現在わが国には360万社ほど中小企業がありますが、国の政策としてその数を減らすことを決めています。国の諮問機関である「成長戦略会議」の中で「後継者の決まっていない企業や成長の見込めない企業はM&Aなどを進め企業淘汰を進めるべきである」としています。会議のメンバーは、竹中平蔵氏・デービット・アトキンソン氏(元ゴールドマン・サックス)・三浦瑠璃氏など日本の歴史や文化、地方の実情を十分に理解していない人たちなので、言葉は綺麗ですが真の意味で国民生活を考えているとは言えません。しかし国は彼らの提言を受け入れ企業淘汰を進めようとしています。

もはや「自分の身は自分で守る」という原理原則を再認識しなければならない時代です。

組織活性化の道

久しぶりの対面型研修ではそうした危うい話も含め、改めて高い次元での組織活性化活動の必要性について話をしました。新しい時代には新しい人材と新しい手法が必要なのです。9月よりまた3年ぶりに5S活動を入口にした集合型研修を始めます。すでに100社以上の実績のある複数の企業が集まって学ぶ実践的な研修です。

詳しくは弊社HPをご覧ください。

<https://sien.co.jp/service/5sproject/>

時代変化は待ってくれません。